

Y05b 次期学習指導要領改訂に向けた天文カリキュラムの提案

有本 淳一(京都市立塔南高校)、松村 雅文(香川大)、水野 孝雄(東京学芸大)、縣 秀彦(国立天文台)、五島 正光(巣鴨中学高校)、成田 直(豊能町立東能勢小)

現在の学習指導要領において、天文分野のカリキュラムは、特に学習の連続性や系統性において、大きな問題を抱えている。具体的には、小学校4年生での星の色、明るさの学習の次に登場するのは中学校3年生であり、ここに「空白の4年間」が存在することなどである。また、現行の指導要領は天文分野のみならず、各分野において多くの問題を抱え、批判の対象となっている。そのため、早々に改訂が行われる方向で中央教育審議会等が動いており、それにあわせる形で各分野の学会や研究会等も提言や提案を行っている。天文分野においても、より良いカリキュラム配置、カリキュラム内容を検討し、いまこのタイミングで提案していく必要に迫られている。

我々はこのような社会的背景の中で、具体的なカリキュラム案を作成した。それは、子どもたちがしっかりした宇宙観を築き、現代の天文学の基本的な概念を形成させることを目的とした。本講演ではいろいろな立場で考えた複数のカリキュラム案と教材、誤概念などを報告し、議論したいと考える。